



## 新年を迎えて

理事長 今井 敬

## 頌春



明けましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、良き新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。令和初となる年頭にあたり、今年の国内外の課題について4点述べたいと思います。

第一は、将来にわたる安定的な皇位継承に関する検討です。昨年、約200年振りとなる天皇の生前譲位があり、様々な行事が華やかに行われました。国事行為と位置付けられた一連の皇位継承式典も、今年4月に予定されております立皇嗣の礼が最後となり、これ以降、皇統を絶やさないための議論が本格化することと思います。男系男子による皇位継承の維持や、女性・女系天皇容認の是非、旧宮家の皇籍復帰、女性宮家の創設等、様々な論点があるわけですが、国民統合の象徴である天皇に関することですから、広く国民の理解が得られるものになって欲しいと切に願っております。

第二は、憲法改正に関する問題です。世界

では状況に応じて憲法を柔軟、且つ頻繁に改正することが趨勢となっております。一方、日本国憲法は施行から70年以上が経過しておりますが、一度も改正されたことがなく、未改正の成文憲法として世界でも稀なものとなっています。そのため、最高法規である憲法と現代社会で生じる問題との間に様々なギャップが生じております。その最たるものが憲法9条であり、自衛隊の活動に関する議論であります。

例えば、尖閣では中国による領海侵犯が頻繁に発生しており、その都度、海上保安庁が出動しているわけですが、自衛隊が対処せねばならないような有事の可能性は常に念頭に入れておくべき必要があります。先の大戦の経験がある日本にとっては極めて難しい問題ではありますが、中国のみならず、北朝鮮情勢をはじめとした地政学的リスクが高まる中、国際情勢を踏まえた現実的な議論が必要ではないでしょうか。

第三は、米国の動向に関してです。トランプが大統領へ就任して以降、TPPからの離

脱をはじめ、イランとの核合意やパリ協定の破棄を表明する等、米国の自国第一主義は色濃くなるばかりです。今年は4年に1度の大統領選が行われます。対立する民主党の候補者が多立している状況にあるため、トランプの再選が果たされ、米国の自国第一主義は当面続くことになるかもしれません。そうなりますと、世界における米国の覇権はますます弱まっていくことになりましょう。かたや、日本は食料とエネルギーの自給率が低いいため、グローバルゼーションのもと、国際協調路線を取ることが必須です。世界の様々な国・地域と経済協定を結ぶ安倍政権の外交政策は、日本の国益にとって非常に重要なことだと思います。

最後に、中国に関して触れたいと思います。今年は、習近平が国賓として来日する予定です。彼は「中華民族の偉大なる復興」を掲げ、米国と並び立つ強国となる長期構想を宣言しております。一方、足下は香港情勢やウイグル政策等で国際社会から強い批判を浴びており、大変難しい時期の来日となります。社会主義国家である中国との付き合い方は非常に難しく、先に述べた尖閣の問題等もありますが、隣国である彼らと真っ向から対立することは得策ではありません。政治・外交上はあくまで戦略的互惠関係を継続すべきです。民間レベルでは、経済・文化・スポー

ツ・その他様々な分野で人材交流を深め、友好に努めることが求められましょう。

以上、令和2年の主な課題について述べました。課題の多い1年ではありますが、今年の夏には56年ぶりにオリンピック・パラリンピックが日本へやってくる等、明るい話題もごございます。昨年のラグビーW杯の成功が記憶に新しいところですが、オリンピック・パラリンピックについても、世界中に勇気と感動を与えるような大会になることを期待しております。

さて、1968年9月に活動を開始したアイアン・クラブは、幾多の変化を乗り越え、現在は賛助会員会社58社と現役・OBのオール鉄鋼人（メーカー・商社・船会社・物流・システム・設備保全・鋼材加工・鉄鋼原料等）の個人526名（内、中部・関西地区個人会員36名）を会員として、自主的な運営と活動に努めてまいりました。令和の時代も、中核事業である定例午餐会（講演会）をはじめ、各事業・各行事の一層の充実を図り、さらなる飛躍と親しみのあるクラブにしていきたいと思います。また、引き続き経費の削減にも努めてまいりますので、会員皆様の一層のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。最後に、皆様の益々のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。